

# 二 土 地

## 2. 地 勢

本縣は略本州の中央に位し、東は長野、北は富山、西は石川、滋賀、南は三重、愛知の各縣に接境してゐる關係上全く海に縁がない。

東北部には飛騨、乗鞍、白山の諸山脈が重疊し、西部には美濃西部山地と伊吹山脈、更にその南方關ヶ原溪谷を隔て、鈴鹿山脈が聳立してゐる。南部は所謂濃飛平野で第三紀より第四紀に亘つての地塊運動の結果形成せられた土地であつて、西は養老山脈より東嶽投山、北は濃飛高原より南は伊勢海に續いて方形をなしてゐる。而してこの平野を貫流するものが木曾、長良、揖斐の三大河である。木曾川は信州鳥居峠附近に源を發し、坂下町邊で本縣に入つてゐる。そして中津川より西に向い濃飛平野を貫流して伊勢海に注いでゐるが、其山地を通過する所では三百米にも及ぶ峡谷を形成し、夙に世間に知られた惠那峽、日本ライン等の絶景を現出してゐる。

長良川は大日嶽に源を發し、八幡町に至り濃飛境坂本峠附近より發した古田川に合して郡上川となり、古生層の山地を迂回しつゝ峡谷を出で保戸島附近に於て武儀川、津保川の二川に合流し、それより岐阜に至る濃飛平野に出てゐる。

揖斐川は伊吹山の北端三國ヶ嶽、權見山附近より發して古生層の山地を南東に流れつゝ養老川と合して揖斐町の邊から濃飛平野に出て養老山脈の東麓を走り、油島で一且木曾川と合して伊勢海に入つてゐる。

飛騨では益田川は乗鞍山の南麓に發源して小坂川、輪川を入れ更に南下して太田町の東方で木曾川に合する。矢張り乗鞍山の北麓に發源して平湯の大瀧を懸けつつ中山附近で双六谷の神秘境を作つて船津町脚下を流れてゆく高原川とがその代表河川である。

## 3. 本 縣 の 位 置

縣 廳 所 在 地		極 地 の 經 緯 度					
地 名	經 緯 度	方位	所 在 地	經 緯 度	方位	所 在 地	經 緯 度
岐 阜 市	東 經 136.45 北 緯 36.25	東 西	吉 城 郡 上 寶 村 揖 斐 郡 坂 内 村	東 經 137.38 東 經 136.17	南 北	海 津 郡 大 江 村 吉 城 郡 船 津 町	北 緯 35.63 北 緯 36.27